

第47回日本脳卒中の外科学会抄録

頸動脈stent留置術後再狭窄例に対する再手術

Reoperation for restenosis after carotid artery stenting

美原記念病院脳神経外科

Department of Neurosurgery, Mihara Memorial Hospital, Iseaki, Japan

赤路和則KazunoriAkaji、富尾亮介RyosukeTomio、谷崎義生YoshioTanizaki、志藤里香SatokaShidoh

【目的】我々は、頸動脈stent留置術後、頸動脈超音波PSV 300cm/秒程度以上の症例で、再手術をしている。今回、我々が施行した頸動脈再狭窄例に対する再手術の治療と予後について検討したので報告する。

【対象】当院にて2003年1月から2017年8月までに頸動脈stent留置術を施行した205例（急性期例は除く）中、再手術をした4例（2.0%）が対象である。すべて男性、症候性であり、年齢は71-85歳、狭窄率は77-99%であった。全例で、Carotid Wallstentを使用し、術後内頸動脈最小径は2.8-3.0mmであった。4例中3例で、cilostazolを内服していなかった。初回治療から5-14ヶ月後にPSVが290-386cm/秒となり、再手術をした。再狭窄に伴う症状はなかった。

【結果】再手術はすべてstent留置をした。2例でCarotid Wallstent、1例でProtege stent、1例でPrecise stentを留置した。cilostazolを内服していなかった3例では、再手術時に追加した。1ヶ月-4年の追跡期間で、再手術後、再々狭窄が出現した症例はなかった。再手術時の合併症はなかった。

【結論】頸動脈再狭窄例に対するstent留置術は安全である。2例でOpen cell stent使用、3例でcilostazolを追加し、再狭窄を予防できている。